

● **トマトの実の落下が起きる** 先週の事務局会議でトマトの実が枯れて黒くなって落下する何かの病気ではないかと提起があった。もとは水田なのだから排水問題が原因ではないか、輪作による影響か、長雨が原因ではないか、異状気温による影響、或いは肥料のバランスの崩れ、最初の石灰の散布量の不足ではないかなど、それぞれの立場や経験から原因について議論が深まりました。

結論として公的機関や農協など専門家技術集団への相談となり、京都府の農業普及所の普及員に現地を見ていただき、火曜日に検査結果を報告いただきました。そこではカビの発生によるものらしいとの結論でした。昨年までは何事もなく成長していましたが、今年はこうした事態になって、困惑しましたが、処方についてご指導いただきほっとしました。

● オオムラサキ観察会 大発見が続く

7月1日(土) 開発(住宅・工場建設、道路用地)などによって失われていく一方の中で 里山農園付近の自然環境は、京田辺市では本当に貴重な場所であることが今回の調査で更に深められました。それは農園として活用している場所の未利用地で、除草しておいた枯草を集めて、ヤマドリが巣をつくり、抱卵していました。まさに子育て真最中です。この日は、朝から数人単位で周辺を歩き回り、何としてもオオムラサキの確認、飛翔に出会いたいと積極的に場所を変えながら観察を続けました。ヤマドリの抱卵している場所も数人が通過していますが、まさかここにいたとはだれも予想していませんので、気にもかけずに通り過ぎていたのです。午前中の観察行動を終わろうかという時間に近畿大学の女子学生さんがフット気にかかり

①里山農園の枯草にヤマドリの抱卵中を発見。数人がわっと撮影のために詰め寄りました。慌てて飛び立ちました。静かにしておくべきとしていましたら、ほどなく戻ってきていました。日曜日の朝一番には姿が見えなかったのですが、月曜日の午後には親鳥が戻っており、抱卵が確認できました。事務局会議の報告では、できるだけ近づかないように、静かにしておいてやろうと一致しました。ヤマドリに出会うことは中々難しいと言われています。まして人間がすぐ近くを歩く場所の横で抱卵するのである。なかなかないことです。また予定していた最終時刻に教育棟の周囲を歩いてみて、何気なく、ここはと注意してみると昼は飛び回っていたタマムシの産卵が行われているのに出くわしました。

②タマムシがコナラの枯れ木に産卵中を発見。聞くところでは、タマムシの卵は5年経過して成虫になる昆虫だそうです。これを聞くと本当にタマムシは貴重な昆虫であることを、さらに実感しました。こうした昆虫がこの里山農園に普通にたくさん生育していることは、非常に貴重な場所であることを証明したものです。

③2年前に植樹したエノキでゴマダラチョウの3齢幼虫を発見しました。この木を広場に移ししょうと林の中に生育していた若木を見つけ移植したもので、2年目になるものでした。ここにゴマダラチョウの幼虫が葉っぱにくっついていました。この日はオオムラサキの飛翔は確認できませんでしたが、3つもの新発見が連続した、すごい一日でした。いずれの発見も参加者全員が確認できました。まさにラッキーな観察会でした。里山農園周囲は貴重な自然環境が残されている場所であることを再確認しました。ご指導いただきました桜谷保之先生に感謝です。

● 近畿地方整備局の業務研究発表会 6月29日(金)

今回で2回目となる取り組み紹介の発表を行ってくれたのが、京都大学院生小林慧人君です。この取り組みは、国土交通省が職員の業務への取り組みの改善と成果をまとめた論文を募集し、審査委員を通過して、プレゼンテーションを行って審査を受けるというものです。小林君、北野君は職員ではありませんが、河川レンジャーという立場から河川レンジャーの活動を通じて得られた成果として中聖牛の取り組みを地域住民と川の安全対策として伝統工法を取り組みました。プレゼンではわかり易い説得力がありました。わかり易く進行も申し分なく歯切れがよく、内容が良く伝わりました。木津川での様々な苦勞がしっかり伝えられました。いい発表でした。審査の結果は少し残念な結果になりました。やはり職員と部外者という壁が大きか

ったようです。3 か月にわたる論文作成に時間を使い、先生方のご指導を受けて頑張っていたきました。ご苦労様でした。成績はともかく、ここで得た大きな支援と努力は、代えがたいものがあったと思います。中聖牛の製作に、ともに取り組んでくれた多くの仲間を代表して頑張ってくれたことに感謝します。

本当にご苦労様でした。

● 京の七夕 古川商店街へ竹笹の提供

7月3日(月) 京の七夕の取組みを行う24の商店街への入札が行われ、里山の会が竹笹を納品することになった5つのうち一番最初が東山区の古川商店街さんです。三条と四条にかかり、きれいな白砂の北白川がすぐ横に流れています。指定の11時より10分ほど遅くなりましたが、出迎えていただきました。細い路地を挟んで並ぶ商店街はまさに京都情緒を醸し出しています、いい商店街です。到着してロープをほどいている間まもなく皆さんが集まって、いい竹や笹やと称賛いただきました。持ち寄った短冊をどんどん取り付けられました。本当に待ち遠しかったのだと、心が伝わりました。このように歓迎いただき、良かったと思いました。1時間もかかって運び込んで苦労が報われました。いい七夕になることを祈って帰路につきました。

● 里山農園の今週の作業

7日(土)各種野菜の支柱建作業 10日(火)管理地の草刈り いずれも9時30分作業開始です。
7日の土曜日の作業は夏野菜(トマトやキュリ、トマトの支柱建てを予定しています。約20本を計画しています。また火曜日の10日には管理地の除草作業を計画しています。早くも梅雨が明けると一斉に大きく成長します。キュリもナスビでも、なりものは目をみはるばかりに大きくなり重たくなります。しっかりした補助装置を作り、いい作物が鈴なりになっても壊れない支柱をつくり上げましょう。
お手伝いをおねがいします。

● 河川レンジャー養成講座二日目

6月30日(土) 京阪電車の人身事故で1時間30分開始が遅れる。3日間の養成講座で川に入っの体験講座は日頃体験できないものです。川の生き物調査、そして流水に流される人を助ける救助体験、川の流れから水の動きを観察し、危険を察知する等、河川レンジャーとして最も大切な水の事故防止を学ぶものです。ところが思わぬ事故のため京阪電車の運行ストップとなり、午前中の講座が圧縮対応となりました。頑張っている受講生の皆さんには少し期待外れとなってしまいました。さて、会場の三川合流部の木津川右岸、「さくらであい館」の下は、去年の台風21号によって、すっかり砂州が流失し、深くなって大人の腰位の深さで、流れも強いものになっていました、ここを渡り切って中州に進まなければなりません。子どもたちには少し危険度が高い場所に変化していました。8月18日に予定している「京都こどもの水辺」の水体験の場所としては水位が10cmは低下が必要と思われます。

● 第2回オオムラサキ観察会

7月7日(土) 10時集合里山農園または普賢寺小学校前 指導前近畿大学教授桜谷保之先生
午前中里山農園を中心に観察続いてカスミサンショウウオの観察
午後は近畿大学キャンパスを訪問 オオムラサキ観察
コナラやクヌギの植林で散策路の改善地を学ぶことにしています。

● 植物観察会7月7日(土) 雨天のため7月9日(月)に変更します

飯岡船公園集合 9時30分 多くの皆さんのご参加をお待ちしています。希少種の生育調査も予定しています。